

令和元年度「横浜市食の3Rきら星活動賞」について

1 目的

本市では、食品廃棄物の発生抑制、再生利用及び啓発等で、他の模範となる取組を行い、顕著な功績を挙げている事業者等を表彰し、その取組を広く紹介することにより、食品廃棄物のより一層の削減を図ることを目的に、「横浜市食の3Rきら星活動賞」を実施しています。

このたび、他の模範となる取組を行っている、次の3事業者を表彰します。

2 各部門の受賞者と主な取組

【発生抑制部門】株式会社JVCケンウッド本社・横浜事業所

事業所内の社員食堂では、当日午前10時時点での入館者数をもとに喫食数を予測して、食べ残しを最小限に留め、調理時には野菜の皮や葉ごと使用することで調理残さを減らし、更に従業員に対してアンケート（メニュー・味・量など）を実施するなど、精度の高い喫食数を生み出しています。

さらに、事業所内コンビニエンスストアで月に約120kg発生する「コーヒーかす」を敷地内で堆肥化し、敷地内緑地で使用するなど、様々な方法で食品廃棄物の発生抑制を行っています。



<社員食堂での掲示>

【再生利用部門】山崎製パン株式会社横浜第一工場

商品の製造工程で発生した、食パンの耳などを有効利用し、「ちょいパクラスク」といった新たな製品を生み出すことによって、食品廃棄物の発生を最小限に留めています。

また、どうしても発生してしまう副産物は、養豚業者が回収して飼料にし、「エコニコポーク」というブランド豚としてグループ会社のスーパーヤマザキで販売されたり、当工場の従業員食堂でその豚肉を使った料理を提供するなど、「食品リサイクルループ」が構築されています。さらに、水分含有量が多く、飼料化が難しい生地なども、平成30年度からリキッド飼料としてリサイクルするなど、他の模範となる取組となっています。



<リサイクルループの図>

【啓発部門】生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ

「もったいないプロジェクト」を展開して、インターネット限定「産地いきいきショップ」での余剰品や規格外の青果販売、注文した食材を無駄なく使いきるための食材管理ができるスマートフォンアプリ「まめパル」をリリースするなど、様々な手法で食品ロス削減につながる取組を行っています。

また、横浜市と横浜メディアビジネス総合研究所が協働して開催した、食品ロス削減フォーラムへの参加や、市と協力して食品ロス削減のための啓発チラシを利用者に配布するなど、発生抑制を意識した啓発に率先して取り組んでいます。

3 その他

表彰者については、以下の日程で表彰を行います。

日 時： 令和元年 11 月 13 日（水）午後 2 時から午後 3 時

場 所： 横浜市開港記念会館 講堂（横浜市中区本町 1 丁目 6 番地）

内 容： 横浜環境行動賞「ヨコハマ 3 R 夢」推進者表彰式の中で、
小林副市長から表彰状を授与

※当日取材を希望される方は、直接、横浜市開港記念会館に
お越しく下さい。



昨年度表彰式の様子

お問合せ先
資源循環局一般廃棄物対策課長 宮田 綾子 Tel 045-671-2558